

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>1 各種学力調査の分析から明らかになった課題 【5年生】(県平均達成率との比較) 国語▼6.5P:「書くこと」▼11.1P 算数▼3.0P:「図形」▼0.1P 「数量関係」▼4.8P 理科▼6.8P:「物質・エネルギー」▼4.6P 「生命・地球」▼1.7P 【6年生】(全国平均正答率との比較) 国語:「話すこと・聞くこと」▼0.9P 「書くこと」▼4.7P 算数→すべての領域において全国平均を上回る。 【8年生】(県平均達成率との比較) すべての教科において県平均を上回る。 【9年生】(全国平均正答率との比較) 国語・英語→すべての領域において全国平均を上回る。 数学:「資料の活用」▼4.5P</p> <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 5・6年生ともに、国語の力に課題がある。特に、「書くこと」に関しては、両学年とも県・全国平均を下回っており、「目的や意図に応じて、自分の考えをまとめて書く」「相手に分かりやすく伝えるために記述の工夫をする」等の力の育成が必要である。 5年生は、3教科すべてにおいて下学年までの既習事項の定着に力を入れる必要がある。また、低学力層の児童に対して、補充学習を行い、基礎基本の定着を図ることも課題である。 8・9年生は、基礎基本の習得が概ね達成されている。さらにスキルアップと併せて、「対話的な学び」を実現する授業改善を行っていく。</p>	<p>1 1学期末学校評価の分析結果から明らかになった課題 【児童】「授業が楽しい」 1～6年生…83% 7～9年生…81% 「授業がよくわかる」 1～6年生…89% 7～9年生…82% 「家庭学習はおうちの人に言われなくて進んでいる」 1～6年生…80% 7～9年生…73%</p> <p>【保護者】 「子どもは、進んで家庭学習をしている」…77% 「宿題やノート、連絡帳に目を通してしている」…78%</p> <p>・「授業が楽しい」「よくわかる」と回答した児童生徒は、全体としては80%を超えている。学力調査で県平均を下回った5年生は、「楽しい」→78%、「よくわかる」→90%という結果であるが、単元末テストの結果(下記)との開きが見られる。これは、授業の中では理解したつもりでも定着にまでは至っていないと考えられる。授業や朝活の中でドリルタイムを取り入れたり、授業での学習内容と家庭学習とを対応させて定着を図ったりする必要がある。 ・家庭学習の取組は概ねできている。家庭学習が確実に自分の力として蓄積されるような取り組み方を指導していくこと、学習が不足している児童生徒へ家庭学習の習慣が身につくように、保護者と協働して指導にあたる必要がある。</p> <p>【5年生1学期末テスト(達成指標80点以上75%)】</p>
	指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況 ・授業改善に向けた「かしこく」プロジェクトからの取組の提案、検証、改善</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・基礎基本の定着に向け、朝活の時間の活用と昼休み、放課後の補充学習</p>

学力に関する達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○単元テスト(国・算・理)で1～6年生は80点以上を75%、60点未満を10%以下にする。 ○定期テストで7～9年生は70点以上を60%、50点未満を10%以下にする。 ○「授業が楽しい」「授業がよくわかる」と答える1～6年生が80%以上、7～9年生が70%以上にする。
------------	---

